

令和4年度 学校評価書

静岡精華幼稚園

令和5年3月31日

A: そう思う B: 大体そう思う C: あまりそう思わない D: そう思わない

精華幼稚園 教育目標		ひとり立ちする子	自己 評価	取り組み状況 改善策	学校関係者評価	
3 つ の 重 点	1 経験・体験の 幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	【取組・反省】コロナ禍3年目の教育活動となったが、常に「経験・体験の幅の拡大」を念頭におき、感染対策と諸活動の企画・実施のバランスを考えながらの園経営を考え、諸行事を実施した。ほぼ計画どおりの活動を行うことができた。	A	コロナ禍での教育活動は本当にご苦労が多いと思う。先生たちの努力の積み重ねには頭が下がる思い。今後も大変なことは多いと思うが、子どもたちのために尽力をお願いしたい。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A	【改善策】子どもたちの遊びがより一層深まるよう、感染対策とのバランスを常に考えて計画する必要がある。	A	
	2 人間関係調整 力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	【取組・反省】各行事の中での「子ども同士の関わりの場」については、大切にしながら教育活動を行っている。フォローも大切にしている。	A	園を訪れた時も、子どもたちが元気な表情でよく声をかけてくれる。コミュニケーション力の育成には今後も注力してほしい。
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	【改善策】現在行っている各種行事の中に「意図的な人との関わりの場」を設定し、コミュニケーション能力をさらに高めていきたい。	A	
	3 聞く態度・聞き 取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	【取組・反省】全職員が常に「子どもの聞く姿勢と聞く意識の有無」にポイントをおき、子どもと接するよう心がけている。	A	先生たちの話に真剣に耳を傾けている子どもたちの姿を見かけることが多い。精華幼稚園の最も良い表れの一つだと思う。
		【子どもの状況】子どもたちの話を聞く姿勢は着実に育ってきている。	A	【改善策】本園の子どもたちのここの一番の集中力は群を抜いている。今後もこの状況が継続できるよう取り組みを進める。	A	

教育 目 標 具 現 に 向 け て 育 て た い 7 つ の 子 ど も 像	1 自由遊びが できる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	【取組・反省】朝の子どもたちの受け入れ後、職員は率先して園庭に出て、子どもたちの遊びの相手をするを心がけている。子どもたちも進んで外に出て遊びを楽しんでいる。	A	先生たちが、朝から園庭で子どもたちと一緒に楽しそうに遊んでいる姿をいつも見させてもらっている。本当にほほえましい光景だと思っている。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみなのびのびと遊びを楽しんでいる。	A	【改善策】子どもの発達段階や個々の成長に応じた声かけや支援を行い、一人ひとりの遊びをさらに深め主体性を育てたい。	A	
	2 集団遊びが できる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりを促したりする。	B	【取組・反省】コロナ禍のため、園庭での遊びは集団遊びより自由遊びが中心となるが多かったためB評価となった。感染状況を確認しながら集団遊びも行った。	A	学年・学級の垣根なく、子どもたちに関わっているのは精華幼稚園の先生たちのよさだと思うこのことが、子どもたちの集団遊びの向上に寄与していると思われる。
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	【改善策】感染緩和に伴い、計画的または意図的な集団遊びの実施は必要であり、積極的に行っていく必要もある。	A	
	3 園行事に楽しく 参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で行事に子どもの思いを反映させている。	A	【取組・反省】子どもたちがより主体的に各行事に参画できるよう、一人ひとりを活かす場面や動線等を考え工夫しながら計画、実施、支援を行っている。	A	精華幼稚園から毎日園児の楽しそうな声が聞こえてくるのは、地域住民としても心温まる思いになる。保護者の方々も積極的にお手伝いしている姿も見られ、大変よいと思う。
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	【改善策】職員が行事に追われ、ゆとりがなくなり、多忙感が強くないよう配慮する。この点は今後の課題。	A	

教育目標具現に向けて育てたい7つの子ども像	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	【取組・反省】本園は子どもの主体性を促しながら、「待つことができる、待つてあげられる」職員集団である。年齢や発達段階に応じて「ここまではやってあげるけど、続きは自分でやってみよう」と声をかけている。	A	先生たちは、子どもの気持ちや思い、それぞれの特性をしっかりと捉えている。今後も共通の基本姿勢をもとに個々の対応をしてほしい。
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	A	【改善策】一人ひとりの「ここまでできる」を的確にとらえ、声かけ、支援を行うことが重要である。	A	
	5 美しくあいさつできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	【取組・反省】朝と帰りの挨拶については、自分から進んで気持ちのよいあいさつをしたり、元気のよいあいさつを返したりする子どもが多い。しかし、まだまだ個人差があるのが現状のためB評価とした。	A	小学校においても児童のあいさつが課題になっている、という話は聞いている。幼稚園、学校、家庭が同一歩調で取り組んでいくことが大切であることは言うまでもない。
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	B	【改善策】幼稚園での働きかけだけでなく、今後も家庭との連携の中で、気持ちのよいあいさつができる子を育てていく必要がある。	B	
	6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	【取組・反省】精華幼稚園は、子どもの気持ちを考えながら、子どもの立場に立って、聞き上手で話し上手な教師となるよう心がけている。基本的に、言葉遣いについては丁寧にお話ができる園児が多い。また、自分から話しかけようとする姿も数多く見られる。	A	精華幼稚園は、子どもが安心して通うことができる幼稚園だと認識している。教師の言葉遣いについても、これまで通り子どもたちの手本となる姿を見せていってほしい。
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、・・・」と話し出す。	A	【改善策】子どもが安心してお話ができる環境づくりとコミュニケーションづくりを日常生活において日々継続していくしかない。	A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇(経験・体験)の広がり求めて、積極的に園外保育に出かける。	B	【取組・反省】コロナの感染対策を行いながら、計画された各種行事を実施し、園児の経験・体験の場を設けることができた。しかし、積極的な園外保育となると、なかなかハードルが高く、A評価に至ることはできなかった。	A	コロナ禍での園外保育については、本当に大変なことだと思う。コロナの終息を願うばかりだが、そんな中でもできる限りの努力を続けていただきたい。期待しています。
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がり、確かな歩みを見せている。	B	【改善策】新型コロナが終息に向かえば、積極的な園外保育は十分に可能である。経験・体験を重視しながらの行事の精選は困難であるが、検討しなくてはならない。	A	

※【取組・反省】【改善点】は、【教師の営み】と【子どもの状況】の両方を合わせた内容について記載しています。

【学校関係者評価委員会】

保護者代表:2名 PTA役員代表:2名 後援会代表:2名 地域住民代表:2名 学識経験者:1名